

## [報告] (1)

# 2023 年度 事業計画案

## 目次

2023 年度 事業計画 (概要).....	3
0.1.    2023 年度活動について .....	3
0.2.    役員、執行体制および会議等 .....	4
0.2.1.    法人第 4 期(2022～23)役員 .....	4
0.2.2.    執行組織体制 .....	5
0.2.3.    会議体 .....	5
0.3.    主要な活動 .....	6
0.3.1.    会長直轄組織 .....	6
0.3.2.    運営統括部 .....	6
0.3.3.    組織統括部 .....	7
0.3.4.    技術統括部 .....	7
2023 年度 事業計画 (詳細).....	9
1.    品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成 .....	9
1.1.    田口の考え方の収集・整理 .....	9
1.2.    研究会との連携強化 .....	9
1.3.    品質工学の体系化 .....	10
1.4.    品質工学新領域開拓 .....	10
1.5.    品質工学手法研究 .....	11
1.6.    (新規) 研究会制度の検討と運用着手 .....	11
2.    品質工学の普及、およびその奨励、助成 .....	12
2.1.    資格制度の制定 .....	12
2.2.    品質工学教育特別講座の開催 .....	12
2.3.    解析支援ツールの提供 .....	12
2.4.    広報活動の強化 .....	12
2.5.    品質工学の国際化 .....	13
2.6.    (新規) 学会推奨制度の制定 .....	13
2.7.    (新規) 品質工学活用支援体制の構築 .....	13
3.    品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰 .....	14
3.1.    論文に対する表彰 .....	14

3.1.1.	精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞 .....	14
3.1.2.	品質工学会 ASI 賞 .....	14
3.2.	品質工学会 日本規格協会 理事長賞 .....	14
3.3.	学生賞 .....	14
3.4.	発表に対する表彰 .....	14
3.4.1.	精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 .....	14
3.4.2.	品質工学研究発表大会 会長賞 .....	14
3.4.3.	品質工学研究発表大会 実行委員長賞 .....	14
3.5.	田口賞 .....	14
3.6.	貢献賞 .....	14
3.7.	表彰体系および基準の見直し .....	14
4.	学会誌その他の刊行物の発行 .....	15
4.1.	学会誌「品質工学」の発行、編集改善と投稿数の増加 .....	15
4.2.	同誌掲載論文のレビュー .....	15
5.	研究発表大会、研究集会等の開催 .....	16
5.1.	品質工学研究発表大会 .....	16
5.2.	品質工学技術戦略発表大会 .....	16
5.3.	企業交流会 .....	16
5.5.	学校交流会 .....	17
6.	品質工学情報の収集、提供 .....	18
6.1.	論文電子公開(J-Stage) .....	18
6.2.	事例データベースの作成・公開 .....	18
6.3.	品質工学関連図書および文献の収集・・・田口玄一博士の著書を主に .....	18
7.	内外の関係団体との連絡および提携 .....	19
7.1.	日本規格協会 .....	19
7.2.	日本品質管理学会 .....	19
7.3.	日本科学技術連盟 .....	19
7.4.	横幹連合 .....	19
7.5.	産業技術総合研究所との技術交流 .....	19
7.6.	JAXA .....	19
8.	その他、この法人の目的を達成するために必要な事業 .....	20
8.1.	会議体運営 .....	20
8.2.	予算管理(全般、会費徴収管理など) .....	20
8.3.	代議員選挙 .....	20
8.4.	貢献賞 .....	20
8.5.	規程整備 .....	20

## 2023 年度 事業計画（概要）

### 0.1. 2023 年度活動について

今年度は創立 31 年目、そこで「ポスト Vision30」活動の開始の年として、昨年度、会長および 3 副会長を中心に議論を進めてきました「品質工学会として【ありたい姿】」をもとに絞り込んできた課題と方針の案をもとに、従来からの継続に加え新たな活動を立ち上げ、それらの実現を目指してあらたに前進することとしました。

25 周年の際、「新たな品質工学の道」として、谷本前会長が「これからの 25 年を見据えて」のお考えを示され、「品質工学会の目指すところ、Vision 30、大切にすること」を掲げて活動してきました。

それら活動の結果を受け、次の 5 年からさらに将来に向け、会長および 3 副会長を中心に役員で議論を進め、まず、品質工学の目的、従来の取り組み、取り巻く環境を踏まえて、あらためて品質工学会の「ありたい姿」を打ち出しました。

【ありたい姿】	(1)社会課題への対応	社会の問題・課題をキャッチアップし、それらを解決・達成するための損失低減の方策を開発できている
	(2)品質工学の成果発信と活用促進	品質工学の研究成果を広く社会に発信し活用の促進ができている
	(3)会員支援	会員各々の目的の実現を支援できている

もちろん、従来から掲げてきた「目指すところ、大切にすること」に変わりはありませんが、上の 3 つを当面の重点とするという学会としての意志であります。

これら 3 つを柱として、各々についての課題を設定し、それらを達成するための活動方針を立てました。そして実施中の活動項目を層別し、あらたに必要な項目を追加しまとめたのが下の表です。

【課題】	【方針】	【2023 年度 取り組み項目(案)】
<b>(1)社会課題への対応</b>  SDG'S など社会課題に対し、社会損失低減に目を向け取り組むこと	幅広く社会損失低減に向け ★研究テーマの設定 ★研究・普及体制の構築	★これまでの社会損失低減研究の整理と <b>社会問題・課題に対応する研究テーマの設定</b> ➢ 社会損失低減活動 ★社会問題・課題に対応する研究を実施する体制の構築 ➢ 公募(ボトムアップ)または指定(トップダウン)テーマ研究委員会の設置
<b>(2)品質工学の成果発信と活用促進</b>  1. 学会活動の DX 化を進め、情報の発信と活用促進を効果的かつ効率的に進めること 2. 発信・活用すべきこれまでの研究成果を整備すること	★これまでの社会損失低減の考え方と方法論の整理 ★会員・非会員それぞれに向けた有用な情報の発信 ★活用促進策の拡充	★これまでの社会損失低減の考え方と方法論の整理 ➢ 田口の研究の構造化 ★企業における社会損失低減の考え方の整理と情報発信 ➢ 企業における社会損失低減の考え方の整理とテキストの作成 ➢ 経営による社会損失低減の研究 ➢ 次世代商品開発プロセスの研究 ★情報発信の方法論の研究と実行 ➢ 従来の広報活動を活用した普及（発表大会、学会誌、ホームページ、企業交流会、各種メディアなど） ➢ 新たな情報発信システムの構築 ➢ 優良事例の再整理と情報発信

【課題】	【方針】	【2023 年度 取り組み項目(案)】
(2)続き		<b>★学会推奨制度の構築と公開</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 品質工学関連書籍</li> <li>➢ 品質工学セミナー</li> <li>➢ 品質工学解析ツール</li> </ul> <b>★品質工学活用支援体制の構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 規格協会、日科技連での実践セミナー</li> <li>➢ 指導員制度の再構築</li> </ul>
<b>会員支援</b>  会員の目的・期待を把握し、 会員の活動をしっかり支援する こと	<b>★会員の目的・期待の調査分析</b> <b>★それらに応じたサポート体制の構築</b>	<b>★会員の「期待/課題」の調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アンケート</li> </ul> <b>★学会員からの研究テーマ提案および実施の仕組み構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公募(ボトムアップ)テーマ研究委員会の設置</li> </ul> <b>★学会外の研究および活用事例の調査と共有（会員向け）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 共有ホームページなど</li> </ul>

本年度は、上記を、各々副会長をリーダーとする運営・組織・技術の 3 統括部に展開し、各部会/委員会で検討の上で具体的な計画を作成しました。内容については「0.3 主な活動」で述べ、またそれらの詳細につきましては 9 ページ以降の「2023 年度 事業計画 (詳細)」に記述します。

## 0.2. 役員、執行体制および会議等

### 0.2.1. 法人第 4 期(2022～23)役員

**代表理事** 椿 広計

**理事** 上杉 一夫、衛藤 洋仁、太田 勝之、大塚 宏明、奥 展威、救仁郷 誠、芝野 広志、島田 尚徳、須江 雅彦、田口 伸、武重 伸秀、田村 希志臣、近岡 淳、千葉 亨、永田 靖、檜原 弘之、浜田 和孝、藤本 隆宏、細川 哲夫、宮川 雅巳、矢野 耕也、山戸田 武史、山本 桂一郎、吉澤 正孝、吉原 均 … 以上 理事 計 26 名

**副理事** 安藤 力、伊勢 大成、糸久 正人、大越 問、河田 直樹、熊谷 保昭、熊坂 治、近藤 芳昭、坂本 雅基、佐々木 康夫、塩沢 潤一、高辻 英之、高橋 和仁、高松 喜久雄、武澤 泰則、鐵見 太郎、畠山 鎮、舟山 博人、細井 光夫、見原 文雄、吉野 莊平 … 以上 計 21 名

**監事** 笠 俊司、庄司 亨 … 以上 計 2 名

(各々五十音順)

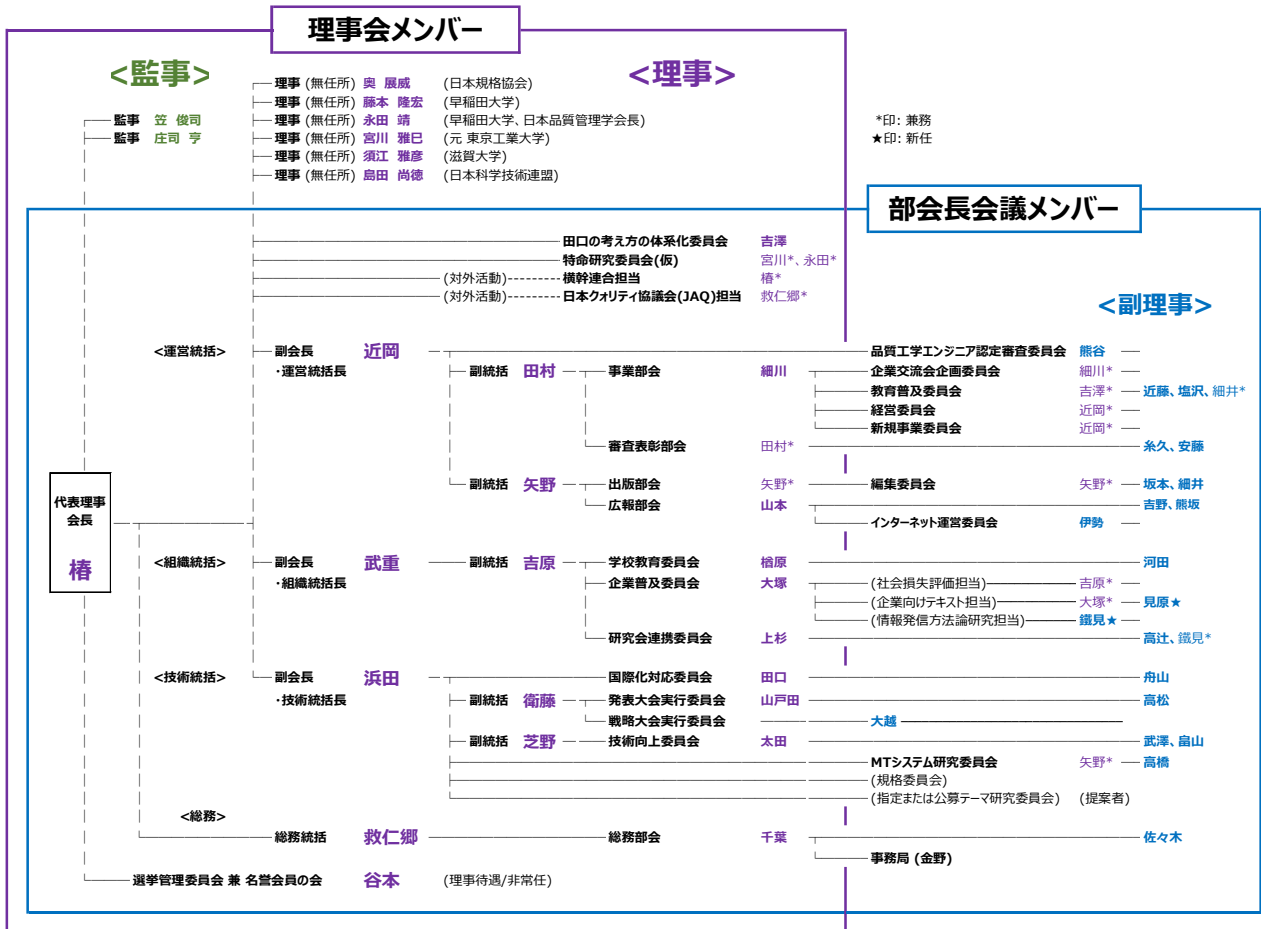
なお、前年度は理事 27 名体制でありましたが、2023 年 3 月末日で辞任(退会)されましたので 26 名体制に、また副理事に関しましては、本年 5 月に安藤欣隆氏のご逝去されましたこと、6 月に見原文雄氏が新任されたことから上記の体制となっております。

この場をお借りしまして、安藤様のこれまでのご活躍に感謝の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

## 0.2.2. 執行組織体制

### 2023年度 一般社団法人 品質工学会 執行組織体制

2023年 6月14日



## 0.2.3. 会議体

- 1) **定時社員総会:** 2023 年 6 月 30 日(金)、品質工学研究発表大会の第 2 日に開催を予定しています。
- 2) **理事会:** 定款第 31～36 条に規定される「この法人の業務執行の決定機関」として、定例開催(9、12、3、6 月)します。また必要に応じて、臨時またはメール審議と臨機に開催します。
- 3) **部会長会議:** 学会運営の執行に関わる検討・論議、情報共有、調整および進捗管理のための会議体で、毎月(原則第 2 水曜)開催します。

## 0.3. 主要な活動

### 0.3.1. 会長直轄組織

#### ★田口の考え方の体系化委員会

Vision30 活動において進められていた「田口の考え方の構造化」を継続完遂するために、田口の論説・著書の調査&整理、5 要素について執筆活動を継続します。

#### ★特命研究委員会(仮称)の設置

品質工学の数理・学理について探求し議論を深め、「品質工学の基本原理の適用範囲/使用上の注意」の知を充実させることを目的に、今年度あらたに設置し、活動を開始します。

#### ★横幹連合活動への参画

本年 4 月に再加盟しました。あらためて横幹連合会員団体との連携を進めます。

#### ★JAQ(日本クオリティ協議会)への参画

日本品質管理学会、日本科学技術連盟、日本規格協会、日本能率協会および品質工学会の品質関連 5 団体で本年 4 月 1 日、正式に設立しました。昨今のデータ改ざん問題など、日本の品質問題についてオールジャパンで対応する活動に参画していきます。

#### ★代議員選挙の実施

現代議員の任期 2 年目となることから、2024 年 1 月に公示し、2～3 月に立候補および推薦を受付、年度末に投票を実施の予定です。

### 0.3.2. 運営統括部

従来から運営してきた企業交流会企画委員会、教育・普及委員会、新規事業委員会（商品開発プロセス研究会、ファブシステム研究会）、経営委員会（次世代経営研究会）、編集委員会、広報部会、審査表彰部会の定常活動は継続していきますが、会員に取ってさらに有意義な活動になることに留意して活動していきます。なお、各部会で今年度特に強く留意して推進する活動を下記にまとめています。

- 日本規格協会、日本品質管理学会、日本科学技術連盟、宇宙航空研究開発推進機構、産業技術総合研究所、公的機関の経済産業省、**関連する学会、機関との連携を強化**していきます。それらの活動を強化することにより、品質工学の社会への発信をさらに広げていきます。…【事業部会企業交流会企画委員会、新規事業委員会、経営委員会】
- **(新規) 学会推奨制度**の構築と公開方法について検討を開始いたします。…【教育・普及委員会】
- **(新規) 品質工学活用支援体制**（外部機関への支援、指導員制度）の構築について検討を開始いたします。…【教育・普及委員会】
- **品質工学エンジニア認定制度**については、会員の認知度を高め、認定の応募者を増やす活動を強化いたします。…【品質工学エンジニア認定審査委員会・運営委員会】
- **広報活動**の中で、学会ホームページ（HP）の活用をさらに充実させていきます。また、それに伴う運営体制の仕組みを整えます。品質工学の魅力、品質工学会の活動を広く認知してもらうための広報事業について、効果のあるものとするための方策について委員会で議論を進めて活動していきます。品質工学会活動および品質工学の研究成果を世界に発信すること、また海外の情報を日本国内で共有化することを意識して、国際化対応委員会と連携して英文化記事・広報をさらに充実させていきます。



す。…【広報部会】

- **投稿規程および査読・編集プロセス**に関しては 2022 年度に改訂して運用を開始しています。運用上の課題を精査し、必要であれば小規模の改定を進めていく予定です。…【出版部会】
- 学会主催の **MT システム研究会、商品開発プロセス研究会、次世代経営研究会、公募研究会**における研究成果が適宜タイミングよく学会誌に掲載されるように、その仕組みを、それらを運営している委員会と連携して検討していきます。…【出版部会】
- **田口賞**への応募促進のために、本年度は田口賞の候補選定活動の体制および田口賞自己審査ツールの提供について引き続き検討します。…【運営統括部全体＋審査表彰部会】
- **過去の論文賞授賞論文、発表賞授賞研究および優良事例を再評価**し、レビュー集にまとめる活動を継続します。また、本レビュー集の出版を学会 35 周年記念事業の一つと位置づけ、それ以外に会員への提供方法についても検討します。…【審査表彰部会】

### 0.3.3. 組織統括部

Vision30 で定めた品質工学の目的「社会損失低減による社会の自由の総和の拡大」実現に向け、「これまでの品質工学の普及」および「今後の社会損失低減を図る研究」を実施して参ります。

前者に対しては「企業および学校で活用するためのテキストのレベルアップ」、後者に対しては「社会損失低減の研究活動」を実施して参ります。

更にこれらを含めた品質工学に関する情報を効果的に社会に発信していくための仕組みを構築し、活用の促進を図って参ります

### 0.3.4. 技術統括部

今年度も昨年度に引き続き、大会企画・運営と技術向上の諸活動を中心に活動していきます。また、品質工学の国際化を進めていくための活動を進捗させます。

#### 1. 大会企画・運営

- 第 31 回品質工学研究発表大会（RQES2023S）の開催  
2023 年 6 月 29 日（木）、30 日（金）に、実地開催（タワーホール船堀）と LIVE 配信とのハイブリット形式で実施する予定です。
- 第 16 回品質工学技術戦略研究発表大会（RQES2023A）の開催  
2023 年 11 月 24 日（金）に、実地開催（星陵會館ホール（千代田区永田町））と LIVE 配信とのハイブリッド形式で実施する予定です。

#### 2. 技術向上活動（技術向上委員会活動）

品質工学の「**体系化**」、「**新領域適用**」、「**手法研究**」の 3 領域について前年から継続中のテーマについて活動します。

- 「**体系化**」については、事例データベースの作成と公開を進めます。
- 「**新領域適用**」については、継続して、商品開発プロセス研究会の WG 活動に委員として参加します。
- 「**手法研究**」については、下記のテーマについて議論を行い、その成果を学会誌に投稿します。
  - ① SN 比、MT システム、損失関数の数理
  - ② 直交表の活用・応用
  - ③ RQE の教育推進

④ 学会の活性化・会員増加活動

**3. 国際化対応委員会の活動**

昨年度着手した活動項目を重点に進捗を図っていきます。

- 国際ページ（英語）の上期立ち上げを目指し、その後、継続活動として内容の充足を行います。
- 世界の品質工学発信地としての立ち位置を確立するため、積極的な情報発信と、International Committee 立ち上げへの関与・支援などを行います。
- 2024 年マレーシアで開催予定の ICRQE へ、前回日本での開催ノウハウの伝授、発表募集、集客等の支援を行います。

**4. 研究会制度の検討と運用着手**

会員の研究活動を促進するとともに、その成果を会員ならびに社会に広く還元していくことを狙いとして、研究会制度を作り、運用を開始します。

研究会として、公募研究会、指定研究会、ワークショップの 3 種類を基準に、これまでの研究活動と新たな研究活動の位置づけを明確にして、会員からの研究テーマの提案や研究会参加がしやすい仕組みを検討します。



## 2023 年度 事業計画 (詳細)

2023 年度に実施する活動内容を、下記の「当学会の目的を達成するための 8 つの活動項目」に沿って記述する。

- 1) 品質工学の研究と調査、および奨励、助成
- 2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成
- 3) 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰
- 4) 学会誌その他の刊行物の発行
- 5) 研究発表大会、研究集会、講演会、展覧会、講習会、見学会などの開催
- 6) 品質工学情報の収集、提供
- 7) 内外関係団体との連絡会および提携
- 8) その他この法人の目的を達成するための必要な事業

### 1. 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

#### 1.1. 田口の考え方の収集・整理

##### … <田口の考え方の構造化研究会>

「田口の考え方の構造化研究会（TQP 委員会）」は、23 年度も継続して研究を続けます。選択した 5 つのテーマに対して、多角的な視点からの検討を続けます。田口の活動を 1950 年代までさかのぼって研究しています。時代背景と品質管理運動との関係もあり、その影響を考慮しながら、田口の技術に対する哲学を整理しています。研究の成果は逐次発表していきますが、会員の皆様からの意見や査読を通じてフィードバックをいただき、内容を充実させていきます

#### 1.2. 研究会との連携強化

##### … <研究会連携委員会>

##### 【公認研究会】

北海道・東北	北海道タグチメソッド研究会、東北品質工学研究会
関東	品質工学フォーラム埼玉、NMS 研究会、神奈川品質工学研究会
甲信越・北陸	山梨県品質工学研究会、北陸品質工学研究会
東海	静岡品質工学研究会、日本規格協会/計測機能研究会(MFRG)、 浜松品質工学研究会、中部品質管理協会/中部品質工学研究会
近畿	滋賀県品質工学研究会、関西品質工学研究会
中国・四国	広島品質工学研究会、香川品質工学研究会
九州	北九州品質工学研究会、佐賀県品質工学研究会
海外	中国品質工学研究会

## 0) 活動全体

横通しのコミュニケーションによる地方連携の土台づくりを完成させます。

### 1) 品質工学研究発表大会（RQES2023S）を活用したコミュニケーション強化

- ① 研究会活動展
  - ・対面形式に戻す
  - ・資料を大会参加者向け web 閲覧
- ② 研究会オーガナイズドセッション
- ③ 研究会懇談会（RQES2023S の後に開催）

### 2) 学会活動の連携実施

本年度は企業向けテキストの普及等の学会活動と地方研究会間の情報交換を進めます。

### 3) 研究会間のコミュニケーション活発化

- ① 研究会が主催するイベント等の情報橋渡しを従来通り継続します。
- ② 昨年度できなかった、他研究会への相互参加の仕組みを構築していきます。

### 4) 学会誌への研究会活動報告掲載の推進と効果的な研究会活動の情報発信の仕組み検討

- ① 従来通り学会誌への研究会活動報告掲載を推進します。
- ② 追加策として研究会活動報告の社会への情報発信効果を向上させる仕組みを検討します。

## 1.3. 品質工学の体系化

… <技術向上委員会>

・「**体系化**」については、事例データベースの作成と公開を進めるとともに、収益や会員増に繋がる活用方法の検討も合わせて行います。

## 1.4. 品質工学新領域開拓

… <商品開発プロセス研究会/技術向上委員会>

商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っています。発足 6 年となる 2024 年度中を目標にして、各 WG の研究成果を盛り込み新商品開発プロセスの全体をつなげた推奨プロセスモデルとその活用の仕組み・考え方をまとめた研究報告書を作成する予定です。そこに至るまでの中間の研究報告は、品質工学会および日本品質管理学会の研究発表大会あるいは学会誌に発信していき、知の共有を図っていきます。

WG1 は商品開発最上流プロセスとしての新規事業を企画する際のプロセスや落とし穴など、社会的課題抽出の視点を基に進めていきます。特に“顧客（パートナー）との共創”をどのように実現していくかを今後の活動のフォーカスとして進めていきます。

WG2 は T7 や品質工学を経営課題達成の手段と位置づけるための方針管理によるマネジメントの研究について、2023 年度も引き続き Sub-WG2 にて管理項目を定義する活動を継続いたします。管理項目の抽出を完了した後は T7 と方針管理をセットで推進するための方策を検討いたします。方策案は書籍の出版、学会発表、イベントでの発表など検討します。

WG3 は事業評価と意思決定に損失関数を適用している Real Option 理論を参考に、意思決定評価方法の研究とその支援ツールの検討を継続します。損失関数を使った新規機能価値の分析手順の事例研究、製品開発プロセスのマルコフ決定過程に基づいた評価方法の研究を引き続き深めていく予定です。

## 1.5. 品質工学手法研究

… <技術向上委員会>

・「手法研究」については、下記のテーマについて継続して議論を行い、その成果を学会誌に投稿します。

- ①SN 比、MT システム、損失関数の数理
- ②直交表の活用・応用
- ③RQE の教育推進
- ④学会の活性化・会員増加活動

## 1.6. (新規) 研究会制度の検討と運用着手

… <技術統括部直轄>

品質工学の深化および発展とそれらの知見の共有促進を図るため、会員のみなさまの多様な課題認識に対し、学会として議論&研究の場を設けます。

今年度中に「テーマ公募制度」を整備し、公募開始を目指します。

会員の研究活動を促進するとともに、その成果を会員ならびに社会に広く還元していくことを狙いとして、研究会制度を作り、運用を開始します。

研究会として、公募研究会、指定研究会、ワークショップの 3 種類を基準に、これまでの研究活動と新たな研究活動の位置づけを明確にして、会員からの研究テーマの提案や研究会参加がやりやすい仕組みを検討します。

## 2. 品質工学の普及、およびその奨励、助成

### 2.1. 資格制度の制定

… <品質工学エンジニア認定審査委員会>

- **品質工学エンジニア申請者の募集**（～9/末）  
申請者の応募は学会ホームページ、学会誌の会告で行い、さらに会員一斉メールで周知します。その他、会員に対する有効な情報発信方法について検討します。
- **申請者の審査**(11/末)  
品質工学エンジニア認定規程の認定基準に則り、委員が事前審査し、最終の認定審査はその結果を基に委員全員が集まり実施します。
- **審査結果の理事会への報告**（12月の理事会）  
認定審査結果を理事会に報告し、審査結果の承認を得ます。
- **審査結果の連絡**（翌年1月）  
理事会での承認内容を申請者へ通知します。
- **認定事務手続き**  
費用請求（翌年2/末）、書類作成：認定書、認定カードの作成（翌年3/末）、・会告作成：学会誌、ホームページ会告の作成、掲載依頼

### 2.2. 品質工学教育特別講座の開催

… <教育・普及委員会>

- 特別講座についてはパラメータ設計コースと MT コースを実施し、学会誌へ実施報告を掲載します。開催形式（対面、Web）は開催時期に適宜判断して決定します。
- 実施済みの特別講座全体に関する座談会を企画します。
- 新規 Web 講座は入門者向けを想定し、普及 WG の解析支援ツール講座と連携を取り、企画します。

### 2.3. 解析支援ツールの提供

… <教育・普及委員会>

- 2023 年 6 月の品質工学研究発表大会の特別企画として、解析ツール紹介の企画と発表を行います。
- 新型コロナウイルス感染状況の推移を見据えて、ツール講座の実施方法を、オンライン又はハイブリッドで開催出来るように、開催方式を検討します。
- 「パラメータ設計の基本と解析支援ツールコース」を 2023 年 11～12 月頃に実施します。
- 「MT システムの基本と MT 法ツールコース」を 2024 年 2～3 月頃に実施します。
- ツールコース受講者に対する受講後フォローで継続してコンタクトできるように検討します。
- パラメータ設計解析支援ツール及び MT 法解析支援ツールの継続的なフォロー実施します。

### 2.4. 広報活動の強化

… <広報部会>

- 個人会員はもとより賛助会員の獲得を図るべく、学会 Web サイトのアクセス数の増加のため、学会誌をはじめ、各部会と連携した情報発信を実施していきます。

- Web サイトのコンテンツ充実のために、各部会と協力をしてページの見易さと情報の新しさに留意して、ステークホルダーとの関係を深化させていきます。
- カタログ展示の再開に向けて準備をします。
- 広告募集、会員増を図るための広報事業について、効果のあるものとするための方策について委員会で議論を進めます。品質工学の魅力、品質工学会の活動を広く認知してもらうための方策について引き続き検討します。
- 今後の広告事業に関して、広報部会の立場として個人会員、賛助会員ならではの魅力を高める方策について委員会で検討を始めます。
- 第 31 回品質工学研究発表大会の前後に 2 回、日刊工業新聞紙面で開催告知と結果報告を掲載することを検討します。また、学会 Web サイトに大会の情報を掲載します。
- 第 16 回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を実施し参加者の確保に努めます。
- 学会誌の季刊化に伴い、Web サイトを通して提供する会員サービスをさらに充実したものにすべく、広報部会委員会での議論を継続します。
- 総務部会、事業部会と連携して内容構成の拡充を進めていきます。
- 情報発信の正確性と迅速性を高めるために、広報部会でのページ更新の役割分担を明確化し、掲載内容を編集できる体制を構築します。
- Web サイトのページビュー数、訪問者数を前年度より増加させます。
- Web サイトのセキュリティ強化に留意します。
- 国際化対応委員会と協働し、Web サイトの英語化について検討を始めました。

## 2.5. 品質工学の国際化

### .... <国際化対応委員会>

昨年度着手した活動項目を重点に進捗を図っていきます。

- 国際ページ（英語）の上期立ち上げを目指し、その後、継続活動として内容の充足を行います。
- 世界の品質工学発信地としての立ち位置を確立するため、積極的な情報発信と、International Committee 立ち上げへの関与・支援などを行います。
- 2024 年マレーシアで開催予定の ICRQE へ、前回日本での開催ノウハウの伝授、発表募集、集客等の支援を行います。

## 2.6. (新規) 学会推奨制度の制定

### ... <教育・普及委員会>

- セミナー、書籍、解析ツールなどを対象に、学会としての推奨に関する制度の構築と公開方法について検討を開始いたします。

## 2.7. (新規) 品質工学活用支援体制の構築

### ... <教育・普及委員会>

- 既存の相談員制度とは別個に、品質工学の活用を支援する体制（外部機関への支援、指導員制度）の構築について検討を開始いたします。

### 3. 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

#### 3.1. 論文に対する表彰

… <審査表彰部会>

##### 3.1.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞

##### 3.1.2. 品質工学会 ASI 賞

・学会誌「品質工学」に掲載された研究論文、論説、解説について審査し、授賞者を選定します。

#### 3.2. 品質工学会 日本規格協会 理事長賞

#### 3.3. 学生賞

… <審査表彰部会>

・日本規格協会理事長賞、学生賞について審査し、授賞者を選定します。

・両賞については賞の認知向上および魅力向上策について引き続き検討し、さらなる応募促進を図ります。

#### 3.4. 発表に対する表彰

… <審査表彰部会>

##### 3.4.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞

##### 3.4.2. 品質工学研究発表大会 会長賞

##### 3.4.3. 品質工学研究発表大会 実行委員長賞

・第 30 回品質工学研究発表大会における発表から上記の各賞を選定します。

・大会発表賞の表彰審査基準の見直しについてはその必要性も含め引き続き検討します。

#### 3.5. 田口賞

… <審査表彰部会>

・田口賞の候補者選定の体制を再構築し、新体制の下で候補者の選定検討を進めます。

・上記の候補者選定検討と整合する形で、田口賞自己審査ツールの具体的な構成および提供方法を検討します。

#### 3.6. 貢献賞

… <総務部会>

2023 年度も例年通り貢献ポイントの累計を基に授賞を実施します。

#### 3.7. 表彰体系および基準の見直し

… <審査表彰部会>

・論文賞および発表賞の項に記載した審査基準の見直しに加え、品質工学会の表彰体系全体の見える化についても引き続き検討します。

## 4. 学会誌その他の刊行物の発行

### 4.1. 学会誌「品質工学」の発行、編集改善と投稿数の増加

#### … <出版部会/編集委員会>

- ・原著論文の掲載は、2023 年は 10 報以上を目指し、理想的には 12 報を考えています。
- ・投稿規程や執筆細則等は一旦完成したと認識していますが、不備があればマイナーチェンジをしていきたいと考えます。
- ・QE スクエアは自由に議論ができる場として、有効活用をしていきたいと考えております。現時点では一定以上の投稿希望があると認識しています。
- ・会員が自由に発言できる場として、良識ある範囲で多くの意見を掲載し、会員の意見が反映できるようにできればと考えております。
- ・引き続き、春の大会の優秀発表者には声をかけていきたいと考えております。
- ・年間 448 ページの必達(16 ページの倍数管理によりコスト低減)に努めていきます。
- ・あまり触れられていない電気特性について、解説記事を検討しております。
- ・実務のできる編集委員の 1 名追加を考えております。
- ・編集作業の効率化や DX 化を踏まえ、システム構築並びに編集委員の追加を検討します。
- ・メールや web 会議の有効活用により会議の参加者も増えていることから、解説記事や対談に有効に使用することを考えています。

### 4.2. 同誌掲載論文のレビュー

#### … <審査表彰部会>

- ・第 30 品質工学研究発表大会の研究発表および 2023 年の学会誌掲載論文に対するレビュー記事を学会誌に掲載します。
- ・前年に引き続き、これまでの論文賞授賞論文および発表賞授賞研究レビュー集の出版を学会 35 周年記念事業のひとつと位置づけ、その具体化に向けて取組みを進めます。



## 5. 研究発表大会、研究集会等の開催

### 5.1. 品質工学研究発表大会

… <発表大会実行委員会>

・第 31 回品質工学研究発表大会（RQES2023S）は、2023 年 6 月 29 日、30 日に、実地開催とオンライン配信とのハイブリット開催で実施します。

- 研究会を含めた 55 件の発表を実施する予定です。
- 実行委員特別企画として、「特別講演：JAXA における持続可能な宇宙開発の取組み」および「特別企画：会員サービス事業 解析支援ツール（パラメータ設計・MT 法）の紹介」を実施します。
- タワーホール船堀を運営およびメイン会場としてオンライン配信するハイブリット形式で実施します。昨年度まで運営会場としてご協力いただきました統計数理研究所からは引き続き協賛いただいています。

### 5.2. 品質工学技術戦略発表大会

… <技術戦略大会実行委員会>

第 16 回品質工学技術戦略研究発表大会（RQES2022A）を 2023 年 11 月 24 日（金）に、星陵會館ホール（千代田区永田町）で開催する予定です。

- ・春の大会テーマ「品質工学で持続可能な発展を！」と関連した議論になるよう検討しています。
- ・コロナウイルス感染症 2019 の経験、昨今の環境変化を考慮し、今後の大会/イベントの新しい形について並行して検討を進めます。

### 5.3. 企業交流会

… <企業交流会企画委員会>

2021 年は提案型事業、2022 年は技法融合をテーマにホスト企業なしのイベントを企画し、どちらも予定を上回る参加人数となりました。このような新企画のイベント開催は一定数以上の参加者を見込むことが可能であり、品質工学の普及に貢献できますが、このような特別企画のイベントを定例化することはリソース的に難しい状況にあります。また、秋の戦略大会との違いが不明確になり、似たようなイベントを年に 2 回開催するという状況になるという問題もあります。本年度はホスト企業様に訪問し、ホスト企業での品質工学推進の加速を支援するという本来の姿に戻していく方向で検討を進めていく予定です。もしホスト企業が現れない場合は、テーマを設定して秋の戦略大会と共同で開催するなど新しい方向性も検討したいと考えております。

#### 企画案

- ・技術を創るための技法融合とマネジメント
- ・シミュレーションと品質工学
- ・品質管理と品質工学

### 5.4. 次世代経営研究会

… <経営委員会>

次世代経営研究会の活動を引き続き行っていきます。基調講演とパネルディスカッションを基本の構成とした定例会を4～5か月毎に開催いたします。また、日本企業の経営課題とその対応について、継続的に議論していくWGを隔月で開催いたします。WG活動はWebを活用し、頻繁に議論していく形式です。そこで抽出された課題、話題を定例会のプログラムに繋げていきます。

国立研究開発法人産業技術総合研究所との技術交流を促進するために、その国家プロジェクトから発展した一般社団法人ミナマルファブ推進機構のファブシステム研究会を通して、産業技術総合研究所および半導体産業への啓蒙を引き続き促進していきます。

## 5.5. 学校交流会

### … <学校教育委員会>

昨年度同様、企業普及委員会や研究会連携委員会および審査部会（学生賞受賞者の講演の実施のため）と連携しながら、学校教育の充実を図って参ります。

同じく、夏季休業期間、春季休業期間を目安に年2回の学校交流会を開催し、学校教育の充実に向けた取り組みを実施して参ります。

研究発表大会が対面となるのに合わせて、開催期間中または開催期間前日に学校教育委員会メンバーのハイブリッド形式（対面＋リモート）での懇談会開催を目指します。

## 6. 品質工学情報の収集、提供

### 6.1. 論文電子公開(J-Stage)

… <総務部会>

J-Stage で公開中の学会誌「品質工学」掲載論文については、遅れている掲載&公開を計画通り(学会誌発行 1 年後)の状態にします。そのために、担当工数の増強を図ります。

### 6.2. 事例データベースの作成・公開

… <技術向上委員会>

引き続き、品質工学研究発表大会で発表された事例のデータベースを充実させ、抜粋版を一般公開、詳細版を会員限定で公開すべく活動中です。

### 6.3. 品質工学関連図書および文献の収集…田口玄一博士の著書を主に

… <総務部会>

品質工学および関連の貴重な文献の散逸を防ぎ、会員の調査研究の用に供するため、文献資料収集事業を継続します。

主に田口玄一博士の著作の寄贈を募り、学会事務所に「水道橋文庫」として収蔵と閲覧の便を図ります。関連書籍・文献をご寄贈いただける方は、事務局までご連絡ください。

## 7. 内外の関係団体との連絡および提携

### 7.1. 日本規格協会

引き続き、「日本規格協会理事長賞」のスポンサーシップいただける関係を維持し、品質工学の研究・活用と教育・出版で連携を進めます。

### 7.2. 日本品質管理学会

★「商品開発プロセス研究会」：商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っていきます。研究報告を2021年6月開催の品質工学研究発表大会に発表いたします。

★「日本クオリティ協議会(JAQ)」：日本品質管理学会、日本科学技術連盟、日本規格協会、日本能率協会および品質工学会の品質関連5団体が集まり、2023年4月1日、正式に設立しました。昨今のデータ改ざん問題など、日本の品質問題についてオールジャパンで対応する活動に参画します。

### 7.3. 日本科学技術連盟

本年度より理事会に参画いただくとともに、連携の検討を進めます。

### 7.4. 横幹連合

本年度あらためて加盟しました。横幹連合会員団体との連携を進めます。

### 7.5. 産業技術総合研究所との技術交流

・国立研究開発法人産業技術総合研究所との技術交流を促進するために、その国家プロジェクトから発展した一般社団法人ミニマルファブ推進機構のファブシステム研究会を通して、産業技術総合研究所および半導体産業への啓蒙を引き続き促進していきます。

### 7.6. JAXA

JAXA 品質工学研究会への参画：JAXA の JIANT システムと品質工学のパラメータ設計の連携性の研究を継続します。

## 8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

… <総務部会>

### 8.1. 会議体運営

**総会:** 発表大会の実会場での開催が復活し、リモートと併せたハイブリッド開催となることに連動し、総会もハイブリッド形式とし、大会とは独立して開催します。

**理事会:** 定例の年 4 回(6、9、12、3 月)の開催の他、必要に応じて、臨時招集またはメール審議として開催します。また、理事会として学会の課題・方針についての議論の時間増やします。

**部会長会議:** 毎月 1 回計 12 回定例通りに開催します。

### 8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)

3 年余り続いたコロナによる行動制限や特別措置も緩和されてきたことから、今年度はイベント等のリアル開催復活による経費増が見込まれ、一方、収入面ではこの 3 年を支えてもらった補助金等の見込みはなく、またコロナ前から引き続く会員減少およびイベント参加者の減少による減収傾向のなか、慎重に予算管理を実施します。

そのため各部会/委員会にはいままで以上の節約と共に、大会等のイベントへの参加者を増やす努力を求めた予算案を策定しました。

但し、その中にあっても、将来の為、品質工学の発展と会員増加につながる活動を促し、計画外であっても積立金を取り崩して積極的に予算をつける方針としました。

### 8.3. 代議員選挙

本年度は法人第 5 期(2 年任期)の 2 年目でありますので、年度末に実施します。

代議員選挙規程に基づき、12 月末日時点での会員データベース登録情報から、選挙人および被選挙人名簿を確定し、2024 年 1 月に代議員選挙を公示、2～3 月に立候補および推薦を受け付けて候補者を選定し、3 月末から 4 月初旬にかけて投票期間とする予定です。

### 8.4. 貢献賞

「3.9 貢献賞」参照

### 8.5. 規程整備

引き続き、法人化以前に制定されたままとなっている暫定規程の改定を各々の主管部門に促すと共に、総務主管として未だ整備できていない倫理規程、理事監事選任規程、就業規程、文書管理規程等のうちいくつかについては制定作業に着手します。